

IAAL

Institute for Assistance of Academic Libraries

ニュースレター

アイアールニュースレター

【特集】

第2回認定試験報告

MAR. 2010

No.5



「クレジット(単位)の実質化」の 風をとらえよ

(財)大学コンソーシアム京都 井上真琴

過日、勤務先の(財)大学コンソーシアム京都で生涯学習講演会を開催した。講師はベストセラー『グローバル恐慌』の著者、国際金融アナリストの浜矩子氏(同志社大学大学院教授)である。サブプライム問題やリーマンショック以降の世界金融危機について、病巣の原因と処方箋を語っていただいた。

その中で印象的な発言があった。「金融を英語でいえばクレジット。語源はラテン語のクレデーレで「人が人を信用して行う行為が金融の根本」。にもかかわらず、傲慢な金融機関が「金融の商品化」(実は債権の証券化!)によって、信頼を媒介にする人間と経済の関係を踏みにじった。これが危機の要因だと。

私は講演を聴きながら苦笑していた。勘の良いひとは既にお気づきだろう。我々高等教育機関に属する者にとってクレジットといえはお馴染み、学課目履修計算上の基準となる「単位」である。講演後、控室にて浜氏と談笑した。「先生、大学の単位もクレジット。目標とした学習成果をあげさせ、信頼に足る単位を授与せねばなりません」「そのとおりね」。

いま大学では、「教育の質保証」「単位の実質化」でもちきりだ。高等教育のグローバル化が謳われるなら必然である。偽りの授業回数や学習時間の担保不足は、日本の大卒者の単位や実力への教育不信を招き、信用は失墜する。大学教員は右往左往しているが、まずは授業を十五週(十五時間)実施することに懸命のようだ。しかし、大学設置基準には「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要と

する内容をもって構成することを標準」とある。ということは、残る三十時間は、予習や復習を含む教室外学習が必須となるはずだ。

だが大学教員は学生に対して、予習や復習、問題解決に向けた教室外での学習活動を課し、教育効果をあげる方途に明るくはない。このため、大学のFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動では、こうした授業の設計、運営、評価を学ぶ研修やセミナーが行われ、教育手法の改善が進められている。そしてようやく、大学図書館の活用がFDの文脈で語られ始めようとしているところだ。

言葉は悪いが、この好機に乗じて大学図書館を積極的に売り込みたい。何という追い風。図書館を利用すればどれだけ教室外学習の効果があがるか。どうすれば学生の主体的な学習を引き出し、学習時間を担保できるかを現場から発信すべきだ。ラーニング・コモンズや各種講習会など材料は豊富ではないか。

私が籍を置く同志社大学では、文科省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択され、すでに高等教育のグローバル化の渦に巻き込まれている。国際通用性のある教育の提供と単位の授与が否応なく課題となる。

教員からは「従来の教育方法では、国際水準の教育や学習支援ができない。指定図書の実質化や運用方法を含めて、図書館運営を改善してほしい」との意見も出た。グローバル化の良し悪しはさておき、風をうまく帆にとらえ、大学図書館の存在意義を示す絶好のチャンスなのではないか。そう思えてならない。

IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験 「総合目録-図書初級」第2回の概要と分析

第2回目のIAAL認定試験「総合目録-図書初級」も多くの方々が受験されました。結果をご紹介します。

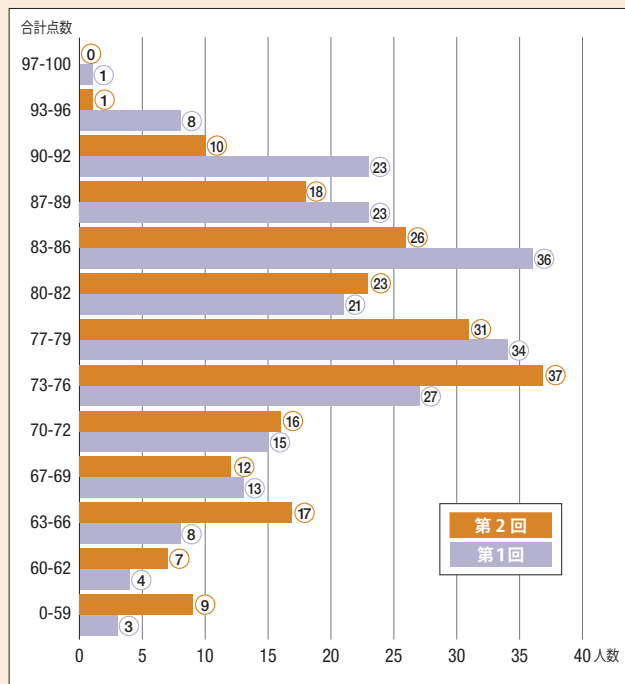
1. 概要

総合目録-図書初級 第2回

日 時：2009年11月15日(日) 14:00-14:50 応募者数：216名
 会 場：東京-TKP虎ノ門ビジネスセンター 受験者数：207名(東京106名・大阪101名)
 大阪-TKP大阪梅田ビジネスセンター 合格者：78名(合格率37.7%)
 出 題：マークシート方式・二者択一・100問

2. 結果

全体の得点分布



前 回の平均点は79.9点でした。今回初めて開催した大阪会場のみで集計すると平均78.1点で、前回の平均点と近い結果になっています。合格率は、全体では37.7%ですが、東京会場は26%、大阪会場は50%でした。

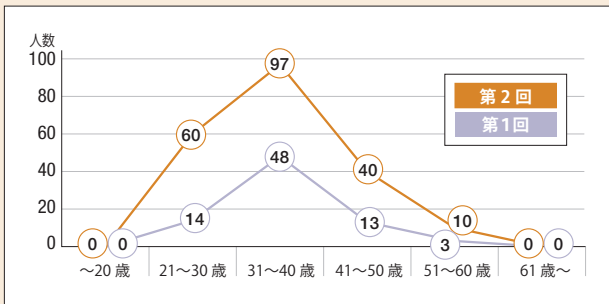
最高得点	94点
得点中央点	77点
平均点	76.4点
標準偏差	80点
標準偏差	8.926

問題の領域別正解率

領域	第2回	第1回	問題数
総合目録の概要	78.5%	78.7%	30
各レコードの特徴	72.9%	83.9%	15
検索のしくみ	75.3%	74.9%	25
書誌同定	74.2%	78.9%	10
総合問題	77.6%	85.7%	20

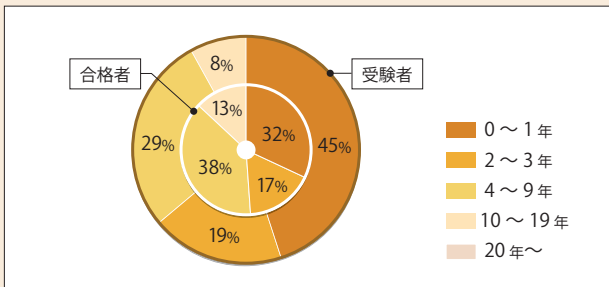
こ の試験では総合目録の概要、各レコードの特徴、検索の仕組みについて理解し、和洋図書の的確な検索と結果の書誌同定の判定ができるかどうかを判定します。問題が容易に回答できるので「初級」ということではなく、この範囲の業務についての設問に80%以上、短時間に正解する必要があります。

3. 付帯調査結果



左 のグラフは、受験者の年齢と年代別合格率です。左下は目録業務経験年数で、受験者数は0-1年の方が最も多く、93名でした。当然経験年数が増えるにつれ合格率は高くなっています。IAALでは、経験年数を重ねた人にも大学図書館の図書整理業務のプロフェッショナルとして試験に挑戦し続けて頂くために、本年秋に「図書中級」を実施する予定です。

NACISIS-CAT を利用した目録業務の経験年数



下の表の勤務形態では、非正規職員と企業等の正規職員の合計が88% (前回82%) を占めています。

勤務形態	受験者	合格者
正規職員 (大学)	18人	8人
正規職員 (企業等)	21人	10人
非正規職員	162人	57人
その他	6人	3人

2010年5月 受験案内

総合目録 - 図書初級 第3回 総合目録 - 雑誌初級 第1回

日時：2010年5月16日 (日) 14:00 - 14:50 (50分)
集合時間 13:40

会場：① 東京 (TKP代々木ビジネスセンター)
② 大阪 (大阪府私学教育文化会館)
③ 福岡 (TKP博多シティセンター)

受験料：一般 3,000円, IAAL会員 2,000円

受付期間：2010年3月1日 (月) ～ 4月15日 (木)

※ 図書初級と雑誌初級を同時に受験することはできません。

※ 2010秋に「総合目録-図書中級」を実施いたします。中級の受験資格は初級合格を条件とします。

**総合目録
図書初級 (第3回)
雑誌初級 (第1回)
同時開催!!**

受験申込書のダウンロード等、詳しくはIAALホームページ (<http://www.iaal.jp>) をご覧ください。

「総合目録—図書初級」第2回 問題例集 <抜粋>

I. 総合目録の概要

最初は総合目録データベースに関する基本的な知識を問う問題群です。各問の文章が正しいか誤りかを○×で答える問題です。

問17

シリーズや全集等の書誌構造はPTBLフィールドに記述されるが、親書誌レコードと子書誌レコードのリンク形成は「可能な限り行う」とされている。

問28

タイトルが漢字表記の場合、検索用インデクスは、レコードに記録されたタイトルの表記形とヨミを照らし合わせて、ヨミの分かち書きを参考にして作成される。

II. 各レコードの特徴

この分野では、書誌レコード、典拠レコード、所蔵レコードの、各レコードに関する知識を確認します。各問の文章が正しいか誤りかを○×で答える問題です。

問37

書誌単位になるかどうかの判断は、固有のタイトルとみなせるかどうかによる。例えば、各編の責任表示がまったく同一で、「石器時代」「青銅器時代」「鉄器時代」の3冊で刊行されたものは、1書誌で表現する。

問40

著者名典拠ファイルを検索し、リンクをたどることによって、総合目録データベース内の同一著者の書誌レコードを、すべて検索することができる。

III. 検索の仕組み

この分野では、NACSIS-CATにおける検索の仕組みについての理解度を確認します。各問の文章が正しいか誤りかを○×で答える問題です。

問47

AUTHKEYには、著者名だけでなく「編」や「著」などの役割表示を示す語が含まれる場合がある。

問58

『Changing Views of Cajal's Neuron』(Amsterdam : Elsevier, 2002)を検索する場合に、「TITLE= Cajals Neuron」は、有効な検索キーである。

IV. 書誌同定

この分野では、検索して返ってきた結果について、求める書誌であるかどうかを同定する力を確認します。各問の文章が正しいか誤りかを○×で答える問題です。

問71

手元の資料と検索結果の書誌データとを照合したと

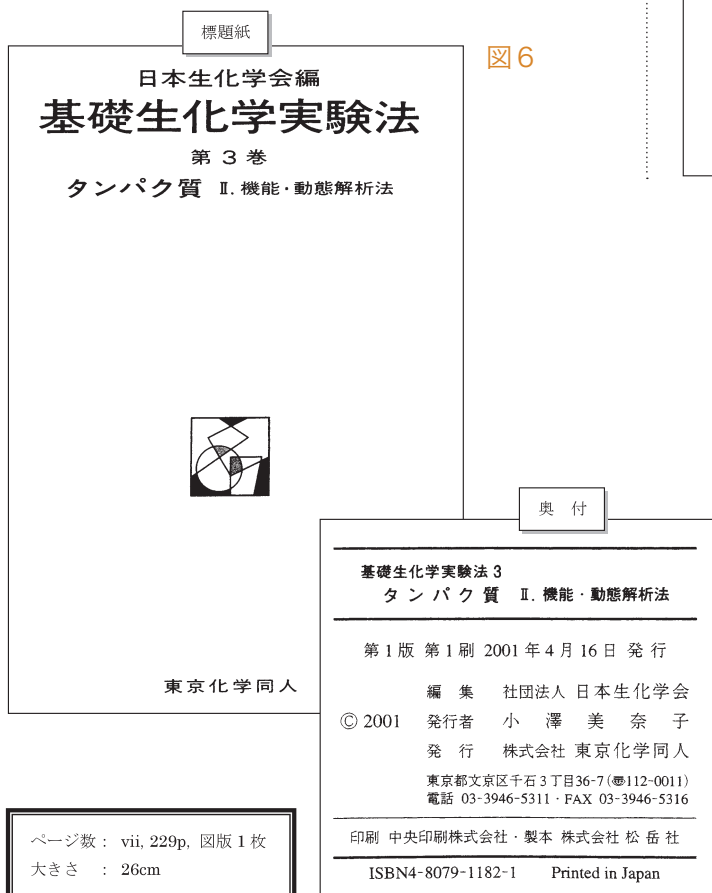
ころ、他の情報は一致していたが、手元の資料にはシリーズ名がどこにも表示されていないのに対し、書誌データのPTBLフィールドにはシリーズ名が記入されていた。この場合は、この書誌と同定しやすい。

V. 総合

実際の作業に必要な技術を問うためには、情報源から正しい情報が読み取れるかどうかを確認する必要があります。そこで「総合」として実務に近い場面での設問を用意しました。各問の文章が正しいか誤りかを○×で答える問題です。

問96. ~問98. で扱われる図6の資料は、階層が上のものから順に並べると、

- 基礎生化学実験法
- 第3巻
- タンパク質
- II
- 機能・動態解析法



となります。

つまり、最上位の階層は「基礎生化学実験法」で、最下位の階層は「機能・動態解析法」です。まずはこの事を理解しておきましょう。

問96

TITLE「基礎生化学* タンパク質*」は図6の図書の有効な検索キーである。

問97

図6の図書の所蔵レコードを登録するのは、次の書誌レコードである。

基礎生化学実験法 / 日本生化学会編<キノ セイカガク ジッケンホウ>. -- (BA48759551)
東京 : 東京化学同人, 2000-
冊 ; 26cm
著者標目: 日本生化学会<ニホン セイカガクカイ>

問98

問98. 図6の図書の所蔵レコードを登録するのは、次の書誌レコードである。

機能・動態解析法 / 日本生化学会編<キノウ ドウタイ カイセキホウ>. -- (BA51414106)
東京 : 東京化学同人, 2001.4
vii, 229p, 図版1枚 ; 26cm. -- (基礎生化学実験法 / 日本生化学会編 ; 第3巻 . タンパク質 ; 2)
ISBN: 4807911821
別タイトル: 機能動態解析法
著者標目: 日本生化学会<ニホン セイカガクカイ>

解答と解説

> 問 17

正 解：×
正答率：78.3%

親書誌レコードと子書誌レコードのリンク形成は「必ず行う必要があるもの」です。書誌レコードのリンクで任意なもの、ALフィールド（著者名リンク）とUTLフィールド（統一書名リンク）です。
（「目録情報の基準（以下「基準」）」3.2 リンク形成）

> 問 28

正 解：○
正答率：86.0%

タイトルの漢字表記形のインデックスは、ヨミの分かち書きを参考にして作成されます。
（「基準」11.3 ヨミの表記及び分かち書き規則、11.3.1 目的）

> 問 37

正 解：○
正答率：76.3%

時代名は部編名であり、各編の責任表示がまったく異なる限り固有のタイトルとはみなされません。部編名は一書誌のVOLフィールドに記入し、VOLグループの繰り返しで表現されます。
（「基準」4.2.3 図書書誌レコードの作成単位、解説（固有のタイトルでないもの））

> 問 40

正 解：×
正答率：50.2%

問17にもありましたが、書誌レコードと著者名典拠レコード間のリンクは任意ですので、著者名典拠レコードからリンクをたどっても、その著者の書誌レコードを「すべて」検索することができるとは限りません。
（「基準」3.2 リンク形成）

> 問 47

正 解：○
正答率：77.3%

AUTHKEYには、ALフィールドからだけでなく、TR（タイトルと責任表示）フィールドの、「△/△」以降の文字列

をデリミタで区切ったものも切り出されます。この場合は「編」や「著」などの役割表示を示す語もそのままAUTHKEYの一部として切り出されることになります。
（「目録システム利用マニュアル」付録C インデックス作成仕様、AUTHKEY作成仕様）

> 問 58

正 解：×
正答率：30.0%

Cajal's の検索用インデックスは語尾の「s」を削除した“Cajal”であり、アポストロフィをトルツメした“Cajals”というインデックスは切り出されません。
（「目録システム利用マニュアル」2.7.2 検索用インデックス ■キーワード 2切り出した文字の変換（正規化））

> 問 71

正 解：×
正答率：86.5%

シリーズ名がある図書と無い図書とは別書誌となります。
（「目録システムコーディングマニュアル」0.4.1B 新規レコード作成の判断基準）

> 問 96

正 解：×
正答率：81.6%

「基礎生化学」は親書誌のタイトルで、「タンパク質」は中位の書誌のタイトルです。親書誌のタイトルは親書誌のTITLEKEYとしてのみ切り出されますし、中位の書誌単位のタイトルは子書誌のTITLEKEYとしてのみ切り出されますので、これら2つのキーのAND検索ではどちらの書誌にもヒットしません。

> 問 97

正 解：×
正答率：89.4%

> 問 98

正 解：○
正答率：82.6%

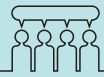
問97の書誌はタイトルが「基礎生化学実験法」となっています。これはシリーズ名であり親書誌となるべきものですから、この書誌に所蔵登録してはいけません。問98の書誌に登録します。

座談会

～受験者に聞こう!～

株式会社クレオテック

CREOTECH



第2回大学図書館業務実務能力認定試験では初めて大阪会場での試験が実施され、101名の方が受験されました。IAAL団体会員の株式会社クレオテックからは、14名の方が受験され13名の皆さんが好成績で合格されました。受験に向けどのどのような準備をされたのか、受験のご感想など生の声を取材しましたのでご紹介いたします。

事務局：合格おめでとうございます。本日は、団体会員のクレオテックの皆さんそして塩見部長にこの試験を受けての率直なご感想と高得点で合格された皆さんがどのような事前準備をされたのかうかがいに参りました。受験された率直な感想をお聞かせください。

Cさん：試験の問題用紙や、メモを持って帰れなかったのが、なんらかの形でフィードバックして欲しいです。

事務局：現時点で詳しい時期は申し上げられませんが、今後、過去問題としてリリースすることになると思います。ニュースレターでも一部分ですが、ご紹介します。皆さんは、かなり事前勉強されたとうかがいましたが、どのような準備をされましたか？

Aさん：N I I 入門編目録講習のテキストの用語を覚えることを中心に学習しました。日頃の作業の確認になったと思います。でも学習を進めているなかで、この範囲は出ないと思った所が出てしまいました。例えば、「Z39.50の説明」「海外の書誌ユーティリティ」「通信規約」などです。

事務局：「初級」といっても決して「初歩」レベルではない試験です。その辺を是非、理解していただきたいです。和書であっても洋書であっても基本的な目録の知識があれば解ける問題となっています。担当していなくても、洋書のタイトルページの情報をきちんと理解し、検索できることが必要と考えています。ところで練習問題として作成されたものは、どのような内容のものでしたか？

Aさん：目録のリーダー、目録サブリーダーが、問題を作成して全部で130問作成し、既存の練習問題も合わせて200問くらい作成しました。引っ掛け問題も必要かと思ひまして、そのような問題も作成しました。



事務局：しっかりと準備されたんですね。試験終了後、業務に活かされた点や成果があった点はありますか？

Aさん：検索の面では、普段何気なくやれていたことが、記号によって見分けるなどそのあたりが勉強になったという声がとても多かったです。

Bさん：なんとなくの経験からではなく知識として検索ポイントを頭に入れることができました。洋書担当ですが、和書の知識の再確認もできました。

Aさん：無理に、2択にする必要がないのではないかと感じることがありました。○か×にしなくてもよいのではないかと、思う問題もありました。意味の取り方によって○か×にはならないのでは？と思うところもあったように思いました。

事務局：初級は、NACIS-CATを事故無く安全に運転するための免許証と位置づけています。ですので運転免許の学科試験と同じように、考えこまなくても短時間で反射的に、それが正しいのか間違っているのかを解答していただく方式を採用したという経緯があります。試験時間はいかがでしたか？

Dさん：単純に時間が足りなくて、見直す時間がなかったです。

Aさん：マークシートの塗りつぶし欄が丸くて、時間がかかりました。マークシートの塗りつぶし例の見本がマークシートの中にあれば良いと思いました。

事務局：率直なご意見をありがとうございます。

事務局：今後、採用、評価の際の参考になるとお考えですか？

塩見部長：こういう試験の資格に合格していると履歴書に記入されていたなら採用の際、とても参考になると思います。結果を見たときは、実力とあっていました。これだけの好成績を得られたのは、スタッフが、日々目録に対する高い意識を持ち、真摯に業務に取り組んだ結果だと嬉しく思っています。

事務局：今後、採用や人事評価の目安となるような認定試験となれば良いと考えております。本日は、貴重なお時間を頂戴し、ご意見ありがとうございました。

株式会社クレオテック

1993年6月学校法人立命館の出資を受けて、株式会社クレオテックは誕生しました。「高等教育と社会をつなぐ架け橋」をモットーに教育関連のさまざまな分野において、高い付加価値を伴うサービスの提供を行っています。

連絡先：〒603-8353 京都市北区平野上八丁柳町28
株式会社クレオテックライブラリーサービス部
TEL：075-466-3446

<ご参加いただいたクレオテックの皆さま>

塩見部長：ライブラリーサービス部

Aさん：目録のリーダー。約10年間、カタログとして勤務

Bさん：目録のサブリーダー。約3～4年カタログとして勤務

Cさん：他大学でカタログとして4年程勤務。現在は、目録業務から離れ発注と受入を主に担当

Dさん：他大学でカタログとして1年程勤務。ローカル所蔵の管理を担当

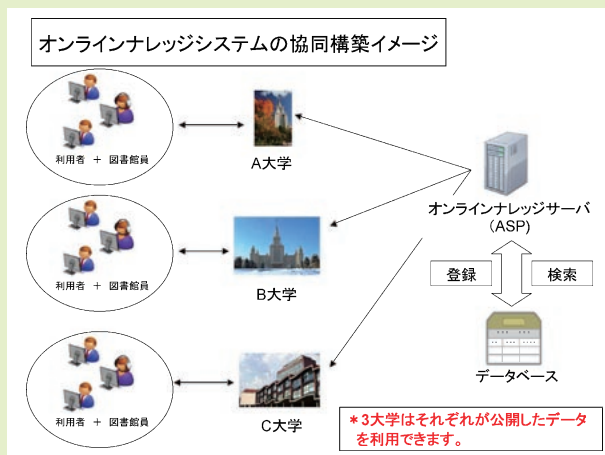


オンラインナレッジシステムのご紹介

■オンラインナレッジシステムとは

オンラインナレッジシステムとは、明治大学が開発しIAALが運用を委託されている共同構築型のナレッジデータベースです。

その特徴は、複数機関での共同運用を基本としている点です。同一システムを複数機関で使いながら、その結果だけを共有します。そのため、独立した運用が可能となり、利用する機能や利用対象者等を自由に設定可能です。システムはASP（Application Service Provider）として提供しますので、ハードウェアの準備等は一切必要ありません。（但し、認証処理を行いますので、図書館システム等の大学の認証を行うシステムとの連携が必要となります）



オンラインナレッジシステムの共同構築イメージ

■オンラインナレッジシステムの主な機能

オンラインナレッジシステムには以下の主要な機能があります。

- コミュニケーション機能（オンラインレファレンス等）
- 情報発信機能（リソースバンク機能、FAQ作成、ニュース配信）
- 利用者エントリー機能（読書ノート機能、ユーザーレビュー機能）
- 国立国会図書館デジタルアーカイブポータル（PORTA）との横断検索機能

ここでいうナレッジとは、これまで図書館が有形・無形に関わらず図書館内部に蓄積してきた情報です。これらの情報+αを複数機関で共同して蓄積し、図書館からの情報発信を充実させていく仕組みです。

また、これまででは図書館の情報発信は図書館員が中心でしたが、図書館利用者自身が情報発信を行うことが可能となる機能も実装しています。

例えば、

- 利用者がオンラインレファレンスを使って図書館への調査依頼

をした結果

- 図書館がこれまで執筆した資料推薦の文章
- 図書館利用についてのFAQやヒントなどの文章
- パスファインダーやブックマークなどの有用な情報
- 図書館発信のニュース
- 専門図書館や特殊なコレクションの紹介や解説
- 図書館利用者が作成したユーザーレビュー（利用者による情報発信）
- 教員や職員が個人で作成した資料の推薦文を蓄積・公開することが可能です。

書誌・所蔵情報以外のこれらの有益なナレッジはHPや紙媒体として提供・保存されていましたが、オンラインナレッジシステムをご導入いただければ、これらを一元的に保存・公開することが可能となり、図書館からの情報発信が充実します。

加えて、オンラインナレッジシステムは共同構築型のデータベースですので、自大学が蓄積しただけではなく、参加大学が作成した情報の多くを利用することができます。

情報流通量が飛躍的に増加した現在では、図書館利用者はより多くの情報を求めています。

オンラインナレッジは、図書館利用者の要求を満たすための新たな試みです。

■オンラインナレッジシステムのその他の機能

オンラインナレッジシステムはASPによる複数機関の共同運用・共同構築が基本ですが、そのために多くの機能を準備しております。

- 既存の認証システムと連携して、最低限の個人情報にてシステム運用が可能です。
- 情報伝達・配信機能にRSS（RDF Site Summary）を採用。HPなどに情報の取り込みが可能です。

* RSSとはニュースサイト等のサイト更新情報を配信するフォーマットの一種です。

* 情報の取り込みにはgoogleAPIを利用します。

* メールによる情報発信・メールアドレスの保存等を行いません。

- データダウンロードによるレファレンス共同データベース（国立国会図書館）への登録用データ作成が可能です。
- 各種設定をWeb画面から変更可能です。
- 画面のカスタマイズが可能です。

* システム側の作業になります。導入機関での画面カスタマイズ機能はございません。

- 個人情報保護の観点から通信内容を暗号化（SSL）しています。これらの機能の実装によって、より安全に、より簡単にシステムを運用することが可能となっております。

■オンラインナレッジシステム導入のメリット・デメリット

オンラインナレッジサービスを導入していただくと、以下のメリットがあります。



ユーザーレビューとOPAC連携 (事例：明治大学図書館)

- より多くの情報を図書館が利用者にWebで提供可能となります。
- 図書館内のナレッジを組織的に保存・活用することが可能となります。
- これまでよりも、図書館の情報発信のための作業を省力化できます。
- 図書館利用者に情報発信の場所を提供可能です。
- 現行の図書館システムとの分離されますので、システム移行等の手間を省けます。
- 比較的安価での導入が可能です。
- ASPですのでシステムメンテナンスが省力化できます。

最大のメリットは、図書館からの情報発信力を強化できることです。これまで図書館は書誌・所蔵情報を中心とした情報発信を行っていましたが、Amazon等の書店サイトが資料を選択・利用するための豊富な付加情報を提供しているため、図書館利用者也図書館OPACやHPにより多くの有益な情報を求めています。また、大学図書館は教育・研究活動の支援がその目的であり、その充実のためには、情報発信力の強化が不可欠です。

一方、デメリットの一つは、導入済みの図書館システムのカスタマイズが必要になる点です。

安全な運用を行うために、オンラインナレッジシステムに個人情報情報を最小限しか保持しないシステム設計のため、認証を外部システムに代替してもらう必要があります。当然、ASPとして機関外サービスとなりますので、個人情報の一部を保持するというリスクはあります。

これらの対策として、個人情報の保護機能も実装されています。

■オンラインナレッジシステムの使い方

オンラインナレッジシステムを導入していただくと、いろいろなサービスを利用者に提供できます。利用者とのアクセスポイントを増やすためには、コミュニケーション機能が便利です。オンラインで参考質問を受け付けし、回答をつけたり、要望や簡単な問い合わせにレスポンスすることができます。また、図書館からの情報発信を強化したい場合には、リソースバンク機能が最適です。資料紹介や様々なドキュメントの公開が簡単に行えるだけでなく、パスファインダーバンクを構築したり、リンクリストを容易に作成できます。googleへの登録サポート機能もありますので検索エンジンの検索対象にすることが可能です。

利用者向けには、読書ノート機能が活用できます。この機能を使えば利用者は各自で読書履歴を作成し、メモをつけたりカテゴリー分けしたり、星の数で評価を記録することができます。加えて



参考質問登録フォーム画面



検索結果画面

ユーザーレビューを公開することもできます。作成した読書ノートはExcel形式でダウンロード可能ですので、卒論等の参考文献リストとしても利用できます。ユーザーレビュー機能を使って、直接教員に学生向けの推薦資料レビューを作成してもらったり、学生に文章を書くためのトレーニングの場に活用したりと、使い方はアイデア次第です。

■オンラインナレッジシステムの導入に向けて

オンラインナレッジシステムの導入をご検討いただける場合には、以下のことが可能です。

- テストIDによるデモサイトでの試用
- 導入を前提とした専用サイトの立ち上げ
- 専用サイトでの各種設定確認およびテスト公開

まずは、テストIDを発行いたしますので、お気軽にお声がけください。

実際に導入が決定しましたら、より詳細な運用設計およびカスタマイズ案件について対応させていただきます。

* ASPサービスのためカスタマイズについてはお受けできない箇所もありますのでご理解ください。

なおオンラインナレッジシステムのより詳しい説明については、以下のサイトに詳細資料がございますので、ご参照ください。

<http://www.iaal.jp/>

オンラインナレッジシステムの問い合わせ
[E-MAIL] info@iaal.jp [TEL] 03-5961-3401

大学図書館の派遣と委託の適法性に関する考察

—労働者派遣に関して—

1. 労働力派遣に関する法令改正への備え

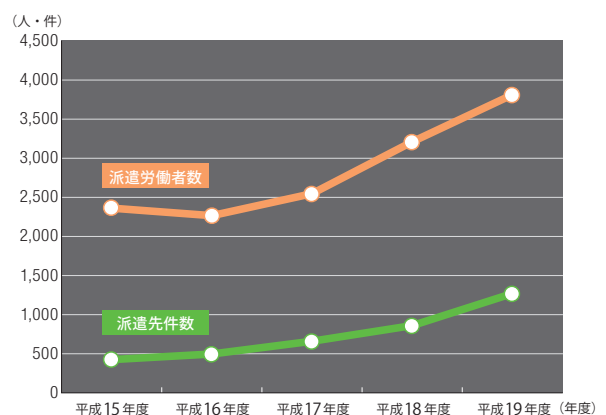
2009年秋の歴史的な民主党への政権交代により、新政権が掲げてきた労働者派遣に関する法令の改正が一気に現実味を増してきました。政権3党のコメントを見ると改正の骨子は製造現場への派遣禁止や登録型派遣の禁止などが中心のようであり、一見すると大学図書館での派遣利用とは直接影響が無いようにと思われまふ。大規模な改正が行われると周辺ではさまざまな見直しが行われることが予想されます。事実、2004（平成16）年3月の労働者派遣法に関わる法令の改正の後では、2005（平成17）年度より首都圏では各労働局が連携し、「派遣・請負適正化キャンペーン」がはられ、偽装請負の防止・解消や派遣労働者の就業条件の確保等を図るための周知啓発活動だけでなく、厳しい個別指導監督が実施されました。大手人材派遣会社が製造業への派遣業務を手掛けている現実と、戦後最悪の失業率にある社会情勢を考えると「弱者救済」を目指した派遣見直しが、予期せぬかたちで大学図書館にも飛び火し、些末な問題点から予想外の大きなダメージに結びつかないとも限りません。

このため派遣や委託という外部の労働力に頼る図書館運営に関し法的側面からの諸考察を行い、守りを固めることが必要と考えられます。当団体では昨年度ある大学図書館さまの業務委託の適法性に関し、顧問社会保険労務士と共に分析をさせていただく機会を得、大学図書館を具体的事例とした質問を東京都労働局に直接確認することができました。このような経緯からいくつかのポイントを数回に分けてまとめてみたいと思います。

2. 派遣対象業務の拡大の経緯

派遣業務は法令施行時にはソフトウェア開発、事務用機器操作、通訳・翻訳・速記、秘書、ファイリ

ング、調査、財務処理、取引文書作成、デモンストラーション、添乗、建築建物清掃、建築設備運転・点検・整備・受付・案内・駐車場管理の13業務であり、この13業務以外には派遣対象業務はありませんでした。その後1986年7月に機械設計、放送機器等操作、放送番組等演出の3業務が追加され、さらに10年後の1996年12月に研究開発、事業実施体制の企画・立案、書籍等の製作・編集、広告デザイン、インテリアコーディネーター、アナウンサー、OAインストラクション、テレマーケティング、セールスエンジニア、放送番組の大道具・小道具の作成・設置等が追加され現在の政令で定める26業務となりました。ここまでの考え方はあくまで職種を限定して派遣を認めるというものでしたが、この枠組みを大きく変えたのが1999年以降の法改正です。ここで一定の業務を除いては原則全面労働者派遣事業が自由化される（但し1年間の派遣期間の制限付き）こととなり、2004（平成16）年の法改正で、1年の派遣期間が3年に拡大されると共に、「物の製造の業務への労働者派遣事業の拡大」いわゆる製造業派遣が認められるようになり、常用雇用の調整的な役割と認識されていた労働者派遣が常用雇用に代替する色合いを持つような、社会的な



【図1】派遣労働者と派遣先件数の推移

大転換を迎えることとなりました。事実平成20年12月26日厚生労働省発表の労働者派遣事業報告書集計結果によると、労働者派遣された派遣労働者数は平成15年度で約236万人、平成16年度で約227万人、平成17年度で約255万人、平成18年度で約321万人、平成19年度では約381万人と、自由化業務の3年延長と、製造業派遣に実施に呼応するかたちで著しい伸張をみることができます。(図1)

3. 大学図書館での派遣業務

さて大学図書館では現在どのような業務を派遣労働者に委ねているのでしょうか。個々の図書館の規模や業務のフローによって一概に定義はできませんが、少なくとも以下のような業務が派遣労働者の支援をえている図書館が少なからずあると思います。

- ①受入業務：書店から届く図書資料を受け入れ、発注データと突合し検収・登録する。
- ②整理業務1：受け入れた図書資料の目録を作成しデータベースに登録する。
- ③整理業務2：各館の所蔵ルールに則り必要な装備(様々なラベルを貼付したり、押印など)。
- ④配架業務：受け入れ、装備が終了した図書資料を書架の定められた場所に配置する。
- ⑤出納業務：カウンターでの主に貸借を中心とした業務、クイックレファレンスや館内案内もあり。
- ⑥レファレンス業務：文献・情報の探し方の指導・援助や相互貸借手続きなど。
- ⑦他、図書館業務に係わる諸事務業務。

これらの業務は、むろん全てを派遣とすることが可能ですが、その契約期間において以下のとおり2つに分かれ大きな差があります。つまり契約可能な期間が1年更新で3年までが限度の自由化業務と、契約期間の定めが無い政令で定める26の業務です。

依頼する図書館としては多くの場合、業務に精通した派遣労働者の方は貴重な戦力ですから、契約期間の定めを受けたくはありません。しかし残念なことに上述の7項目において、契約期間の定めが無い政令で定める26の業務に該当するのは②の目録作成業務(表1の8号(ファイリング))以外はありません。

グレーゾーンとしては⑧の諸事務業務は、表1で示す5号(事務用機器操作)に包含されるとの解釈

も良くなされるため、当局に確認してみましたが、定義は『電子計算機、タイプライター、テレックス又はこれらに準ずる事務用機器の操作の業務』であり、電話を受けたり、伝票を書いたりする業務は一切含まれません。5号(事務用機器操作)の解釈が当てはまる業務は事務機器操作のみを扱う狭義なものに限られ、一般的な事務は自由化業務です。

⑤の出納業務、⑥のレファレンス業務も表1の16号(案内・受付、駐車場管理等)に包含されるとの解釈もあるため、これも当局に確認してみましたが、やはり図書館のカウンター系業務は全て案内・受付には含まれません。現実にご利用者の受付をして、館内案内をしているにも係わらず、案内・受付とはみなされないのです。この業務の定義は、『建築物又は博覧会場における来訪者の受付又は案内の業務…』であり、企業の受付嬢や展示会のコンパニオンしか対象としていません。元来専門性の高い労働者に派遣業務が開放されたはずが、実態は業界団体等からの働きかけの結果が現在の採択業務であるようにもみえます。仮に図書館のカウンター系業務を16号として解釈するにはどうしたらよいか質問してみましたが、団体等経由で立法府にアプローチをするしか術が無いとの解答でした。この法の歪みは、今後我々が声を上げていくべきところあなのかもしれません。また政令で定めた26の業務であっても、電話をとったり、図書資料を搬送したり配架支援したりする付帯業務は全就労時間の10%までと解釈されます。運用には留意して下さい。

次号は請負に関しての疑問を取り上げます。大学図書館のアウトソーシングに関する疑問があれば、事務局までお寄せ下さい。

【表1】政令で定める26の業務
(契約期間の枠が無い)

- 1号(ソフトウェア開発)
- 2号(機械設計)
- 3号(放送機器等操作)
- 4号(放送番組等演出)
- 5号(事務用機器操作)
- 6号(通訳、翻訳、速記)
- 7号(秘書)
- 8号(ファイリング)
- 9号(調査)
- 10号(財務処理)
- 11号(取引文書作成)
- 12号(デモンストレーション)
- 13号(添乗)
- 14号(建築物清掃)
- 15号(建築設備運転、点検、整備)
- 16号(案内・受付、駐車場管理等)
- 17号(研究開発)
- 18号(事業の実施体制の企画、立案)
- 19号(書籍等の制作・編集)
- 20号(広告デザイン)
- 21号(インテリアコーディネータ)
- 22号(アナウンサー)
- 23号(OAインストラクション)
- 24号(テレマーケティングの営業)
- 25号(セールスエンジニアの営業)
- 26号(放送番組等における
大道具・小道具)

近視眼的図書館経営と アウトソーシング

アメリカにおける3つの事例から

慶應義塾大学 助教(有期) 小泉 公乃

図

図書館界では国内外を問わずアウトソーシングがおこなわれ、その件数も増加傾向にあります。アウトソーシングは、経済的な不況とIT技術の進展によって1980年代から1990年代にかけて営利企業において注目された経営手法で、組織を抜本的に再構築する経営論であるリストラクチャリングなどと一緒に用いられます。組織改革の過程においてアウトソーシングを適用することで、これまで組織の内部でおこなってきた業務を外部から調達することになります。このときのアウトソーシングの目的は、「人件費の安い地域や組織への外注による経費削減」と「製品・サービス品質の維持や向上」です。

たとえば、多くのパソコンメーカーは、自分たちの不得意な技術であるOSやCPUなどを自分たちで開発・製造せずに外から調達し、「デザイン」と「組み立て」に特化することで、低価格と品質維持・向上を両立させてきました。近年は、「組み立て」も外注化することで、「デザイン」のみに特化して成功する傾向にあるようです。このときの「成功」と「失敗」とは、具体的に何なのでしょう。その答えは、経営層によって設定された「目標・目的」と「時間軸」にあります。パソコン市場の黎明期におけるメーカー各社は、パソコンのOSをマイクロソフト社に外注し、自らはハードの生産と組み立てに特化することで利益を上げました。この意思決定は、製品開発の速度を上げると共にメーカー各社に利益をもたらし、当時は成功とみなされました。しかし、市場が拡大するにつれて、外注先のマイクロソフト社に莫大な利益をもたらすことになりました。また、パソコン市場が飽和し始めた段階で、技術先進国のメーカー各社は、「組み立て」を人件費の安い開発途上国の企業に外注し、低価格と品質維持を両立させました。これも当時は成功とみなされましたが、近年では開発途上国に「組み立て」の知識が移転し、開発途上国の企業は競合となっています。つまり、短期的に成功とされていたはずの経営判断も、長期的に考えると失敗だったと解釈できる状況にある

ともいえるわけです。このように、営利企業におけるアウトソーシングは、経営層によって設定された「目標・目的」と「時間軸」によって、成功が決定付けられています。ここで大切なのは、経営者は、「目標・目的は正しいのか」、「いつまでにその目標・目的を達成しなければならないのか」という難しい判断を常に迫られ、それによって成否の解釈が異なるということです。また、見逃してはならないのは、一度外注化した業務が再び組織内部に取り戻される事例は、少ないということです。

このような経営手法であるアウトソーシングは、図書館界においても、特に1990年代から数多く採用されています。そして、営利企業と同様に短期的な経費削減を目的に適用され、図書館の現場が混乱したり、図書館の専門的な知識の消失が危惧されたりする事例がアメリカで数多く報告されています。

例

たとえば、1990年代前半のミネソタ大学図書館では、大規模なリストラクチャリングがおこなわれました。具体的には、①厳しい経済的環境に対応するために経費を削減し、②効率的に業務をおこなうために抜本的に業務工程を見直し、③図書館員の業務生産性を向上させるために組織形態を官僚制からチーム制に変更しました。つまり、経費削減を目的に組織構造を大幅に変更しようとしたのです。しかし、このプロジェクトは大きな課題を抱えることになりました。第一に、まったく新しい組織形態であるためにプロジェクトがうまく進まず、それが完了するまでに18ヶ月もの時間を要しました。非常に多くの図書館員がプロジェクトに投入され、多くの図書館員が疲弊したのです。図書館員の中には、プロジェクトに明確に反対する者もいました。第二に、図書館の管理職を中心に解雇あるいは配置転換をしなければなりません。これは、組織内で非常に大きな議論を巻き起こしたのです。第三に、チーム単位での仕事は従来の働き方とはまったく異なりますので組織内に混乱を招き、図書館業務の大幅な遅延が生じました。

また、同じ時期のライト州立大学図書館では、厳しい経済環境を理由として目録業務がアウトソーシングされました。ここでは、図書館の専門性のひとつである「目録知識の消失」が危惧されました。同様にイリノイ大学シカゴ校図書館においても、業務の混乱が生じ、27ヶ月もの時間がプロジェクトに費やされ、数多くの落とし穴があったと報告されています。

紹

介したいずれの事例も、検討段階で無駄とされた業務工程が削減され、図書館員が解雇されたり、外注化されたりしているために、経費を削減するという目的は達成されています。しかし、経費削減という目的は達成した組織改革ですが、図書館がこれまで積み上げてきた図書館の専門的な知識は、職員の削減や業務の外注化と共に図書館内部から消失していることがわかります。また、事前に専門性の消失を危惧する声が上がっていたにもかかわらず、経営層によって経費削減や組織の効率性が優先されていることも同時にあきらかになっています。さらには、多くの場合、図書館の理念や専門性についての議論はほとんどないままに組織改革がおこなわれ、改革後も理念や専門性がどうなったかの議論はされていないようです。

こうした状況は、「近視眼的図書館経営」の結果であるといえます。「近視眼的」とは、経営者や組織が見誤った目標・目的を信じている状態を意味します。この言葉は、マーケティングを専門とする元ハーバード・ビジネススクール名誉教授のセオドア・レビットが、顧客を中心に事業の目的を定義せずに、製品を中心とした狭い視野から目的を定義した企業が衰退してしまうことを表現し、マーケティングの重要性を説いたものです。それをレビットは、「近視眼的マーケティング (Marketing Myopia)」と呼びました。この近視眼的発想は、マーケティングの領域のみならず、現代の図書館経営にもあてはまります。先の事例でいえば、「近視眼的図書館経営」によって設定された目標・目的は、経費の削減と業務生産性の向上でした。この目標・目的を達成することによって、図書館は本来失ってはならない図書館の専門性のひとつである「目録の知識」を消失する危機にさらされています。当然、図書館の専門性を失うことは図書館の理念の実現からも遠ざかるわけです。このように、現代の図書館における「近視眼的経営」は、図書館の理念や図書館が非営利組織であることを忘れ、知的・教育的な成果ではなく、経費削減による財務的な成果を追い求める状態にあ



ることです。現代の図書館経営は、「投資対効果」という効率性から短期的な経費削減を目標・目的とするような近視眼的な状況にあり、図書館本来の目標・目的を見誤っている可能性が高いといえます。

また、近視眼的図書館経営を助長しているものとして、短期的な時間軸で成果を求めようとする社会的な風潮があげられます。この風潮は、図書館の経営層にアウトソーシングなどの安易な経費削減手法を採用させやすくします。アメリカの図書館経営の事例にも、年度末になるたびに財政状況の説明責任を厳しく問われていたものもありました。短期間の時間軸が設定されていることは、日本の図書館においても同様のことなのだと思います。

近

視眼的にならない図書館経営とは何なの
でしょうか。ここで紹介した事例からわかることは、経営戦略や経営計画を策定する段階から、①図書館の経営理念をふまえ、②知的・教育的な目標・目的を重視し、③急進的な変化を求めず、④長期的な視点を大切に、⑤それと同時に現場の図書館員を大切にすること、が少なくとも必要であるように思います。特に、図書館は資料保存機能や教育機能を持つことから、営利企業よりも長期的な視点から経営を考える必要があれでしょう。また、このような一連の価値観を理論的にまとめた図書館経営論を図書館員自らが考えることも必要です。理論的な根拠に基づいた図書館独自の価値観が背後にあるからこそ、営利企業を対象にした経営論からの影響を受けにくくなります。

もちろん、図書館を取り巻く経済環境が厳しい状況であることは、当分変わらないことが予想されます。しかし、少なくとも経費の削減は、図書館の理念を実現する過程において結果的に達成されるものにしないと取り返しのつかない問題が生じることになるでしょう。このような経営判断は極めて難しいことですから、図書館界全体で取り組む必要があると思います。

目録作成の現場

《図書館流通センター》

大学図書館支援機構 上田修一

図書館流通センターは、地下鉄茗荷谷駅から5分ほどの大きなビルの中にあります。新刊書の処理部門では、仕切りのないワンフロアに数十名のスタッフの机が並べられ、整然と目録作成作業が行われています。

まだ発売前の新刊書が届くと、まず、仮の書誌データをもとにレコードが作られ、識別番号が与えられ、また、本には一冊ごとにICタグが付けられます。このICタグによって、作業中の本がどこにあるのかがわかる仕組みになっています。次に、表紙の写真が撮影されます。目録作成の最初の行程は、分類と件名付与です。TRCは日本十進分類法と基本件名表を使っていますが、かなり独自の件名が増えて独自の件名標目表となりつつあります。一人の担当が分類と件名付与を行ない、別の担当がチェックを行ないます。

次の過程では、目次や内容細目の入力が行われます。本の目次や帯をスキャナーで入力し、OCRソフトでテキスト化したデータを校正したデータを使います。

その後がようやく書誌記述となります。また、著者が初出であれば著者名典拠レコードを作ります。目録入力では人名、団体名の典拠レコードとリンクされます。

一日に平均して270点を処理するTRCの目録作成プロセスの中で、特に二つの点に感心しました。一つは、情報システムがうまく作られていることです。入力、編集画面を見ると、それぞれの作業に適切に対応できるように細かく配慮されていることがよくわかりますし、本の中の必要箇所をスキャンしテキスト化する処理を随所に使うなど、人手の入力をできるだけ省くよう工

夫されています。本にICタグをつけて所在が誰にもすぐわかるようにするといったところにも、長い経験が反映されていると感じられます。

もう一つ、品質管理の徹底ぶりにも強い印象を受けました。例えば、目録作成後の各レコードは、複数の担当者のチェックを受け、さらに何種類ものリストが作られ、校正がなされます。作成された目録レコードにこうした何重もの確認作業がなされるのは、目録には間違いがあってはならないという伝統に基づくだけではありません。ここで作られた目録レコードは、多数の公共図書館でそのまま使われ、また、NACSIS-CATの総合目録ファイル中の書誌レコードの情報源となり、オンライン書店のデータベースでも使われています。つまり、広く利用されているので、品質についての保証がより重要になったためと予想されます。

図書館が独自の目録作成を続けていたなら、どの図書館も今の図書館流通センターと同じような目録作成環境を持つことになっていたでしょう。しかし、TRC MARCの質の高さと配布の効率の良さ、それに営業力のため、ほとんどの公共図書館は自分で目録を作るのをやめてしまいました。図書館流通センターの努力が、日本の公共図書館から目録担当者と目録の知識を急速に失わせるのを促したとすれば、まことに皮肉な結果ですが、それは図書館流通センターのせいではなく、図書館側の問題です。



「千代田区は特別区か」

今回は出版地に関して、日頃疑問に思っている事を書いてみます。

まず和図書の場合ですが、「東京都特別区は「東京」とのみ記録する。」（「日本目録規則」2.4.1.2A）事になっています。従って、出版者の所在地が情報源に「東京都千代田区・・・」と記載があれば、PUBフィールドには「東京」と記入する事になります。それでは、情報源に「千代田区・・・」としか記載が無い場合はどうなるのでしょうか。この場合は二通りの考え方があるようです。

まず、情報源上に東京都である事が記載されていないのだから、「[東京]」と補記にすべきであるという考え方。この場合は、千代田区という表記があっても、それが東京都の千代田区かどうかは推測でしかないのだから補記にすべきだ、という考えです。

もう一つは、東京都とは明記されていなくても、郵便番号や電話番号などから東京都である事が明らかであれば、千代田区は「東京都特別区」なのだから補記の括弧は不要で「東京」と記入すれば良いという考え方。東京都であるかどうかは表示されている必要は無く、特別区である千代田区という表示があれば補記の括弧は不要であるという考えです。

次に洋図書の場合です。「出版地などは、表示されているとおりの形と文法上の格で記録する。」（「英米目録規則」1.4C1）一方、州名を記入する場合は巻末の略語表を使用します。それでは、情報源上に巻末の略語表とは異なる略語が表示されている場合はどちらを採用すべきなのでしょうか。例えばMassachusettsは略語表では「Mass.」と省略する事になっているのに対して、資料の情報源上には「MA」と表示されている場合などです。記入する際に省略する場合は略語表を使用し、記載がある場合は情報源の表示どおりに転記すべきではないかと思いますが、州名の略語は常に巻末の表を使用すべきであるとも考えられます。

いずれも、どちらの考えも成立するようで、NACSIS-CATの書誌にも両方の記入の仕方が見られます。普段目録を採られている皆様はどうお考えでしょうか。

(IAAL事務局：K生)



情報リテラシー

■ 明治大学図書館職員SDプログラム

大学教育支援プログラム（特色GP）研修の企画・運営の委託を受け、平成21年11月27日、30日に実施しました。昨年に引き続き、(1)プレゼンテーション技術の2として「分かり易く～話し伝える基本」(2)教授法2の実践編として、「学生が主体的に学ぶ為の授業デザイン」をテーマとして、一流の講師による講義と授業や日々の業務で生かされるような内容の演習を行いました。

広報

■ 第11回図書館総合展・第11回学術情報サミット2009（報告）

平成21年11月10日(火)～11月12日(木)にてブースを出展いたしました。IAAL団体会員、個人会員の皆様のご協力により、多くの方にお立ち寄りいただき、大盛況にて終了しました。ご来場、誠にありがとうございました。

IAAL認定試験のクイズは、3日間で延べ約300の方がチャレンジされました。合格した方に、当機構オリジナルマウスパッドメモ、卓上カレンダー、ボールペンをプレゼントしました。オンラインナレッジデータベースの説明に関しては、沢山の大学図書館の方に興味を持っていただきました。今後は、説明会を全国で実施し、参加大学を増やしたいと考えています。



詳しくは、当ホームページをご覧ください。

▶ <http://www.iaal.jp/>

■ オンラインナレッジデータベース説明会

オンラインナレッジデータベースについての説明会の実施その他お問い合わせに関しては、オンラインナレッジデータベース担当高橋までご連絡ください。

▶ お問い合わせ先 TEL: 03-5961-3401

研修事業

■ 私立大学図書館協会東地区部会・研修分科会

平成21年度からの標記分科会の発足に際し、企画・運営の委託を受け、年4回の集合研修を実施しました。平成22年度も引き続き、IAALが担当します。今年度のテーマは①マネジメント力②図書館のパフォーマンス向上、です。アウトソーシング化が進み、図書館職員として現状を多角的に分析し、評価し、実現する能力が必要とされてきています。委託外注や電子化、学術情報流通、利用者サービス等について、広い視点で大学図書館の現状を考える場となればと思っております。

参加募集に関しては、私立大学図書館協会のホームページをご覧ください。

▶ <http://www.jaspul.org/east/index.html>

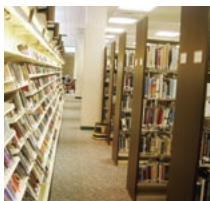
■ 派遣・業務委託スタッフ研修支援

平成21年12月5日に、図書館スタッフ・丸善スタッフリーダー研修の講師を担当しました。今回は、「情報リテラシー」をテーマに行って参りました。

図書整理支援業務

多言語等の特殊資料について、お困りではありませんか？ IAALでは、その様な高度な図書整理業務を支援する事業を行っています。蔵書の遡及入力が進んでいる中で、英語以外の外国語資料や、特殊コレクション等の整理についてご検討される際は、是非IAALにご相談ください。▶ info@iaal.jp

> COVER



Prince George's County
Memorial Library
(Greenbelt Branch)

5月のIAAL認定試験の
申し込み締め切りは

4月15日(木) 当日消印有効です。
申し込みはお早めに!!